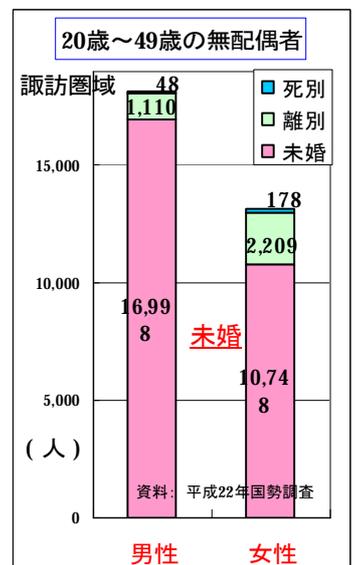
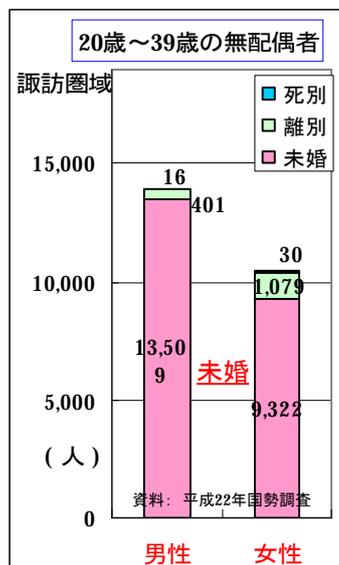
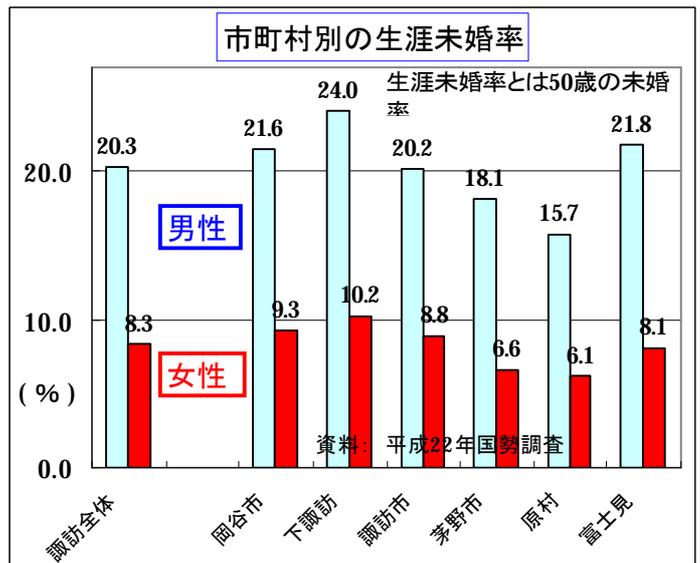
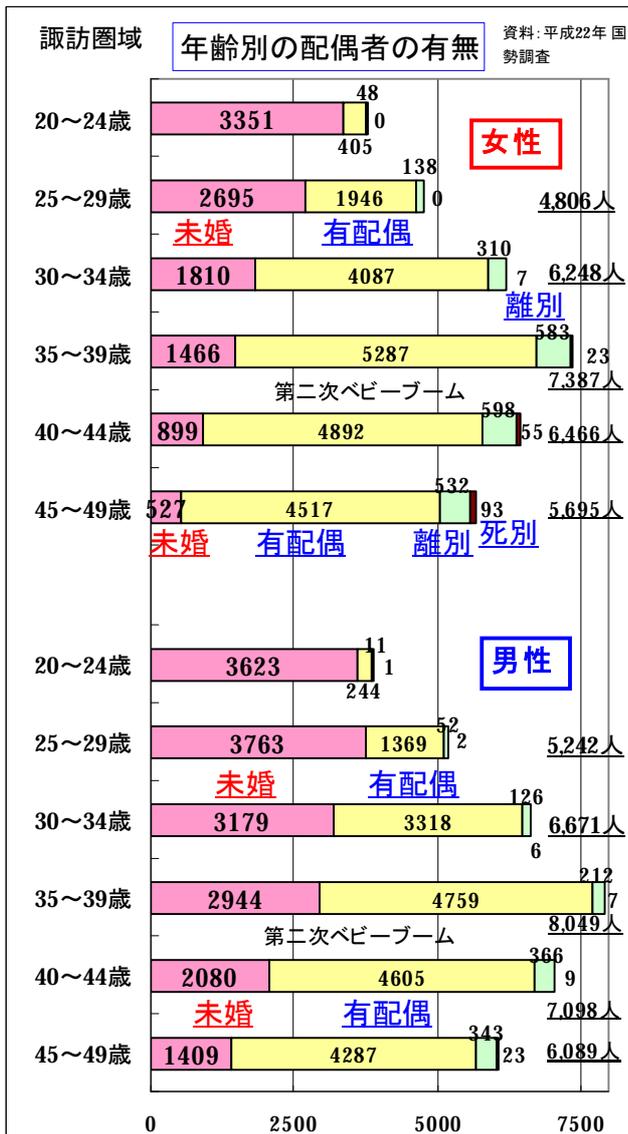


人口減少に関連し 未婚者数や未婚率についての考察

人口減少が論じられるとき、あげられるのが年と共に高まる未婚率の上昇である。日本の場合には人口減少に直接影響するのは女性の未婚率であるが、男性の未婚率の高さは社会問題にもなっている。

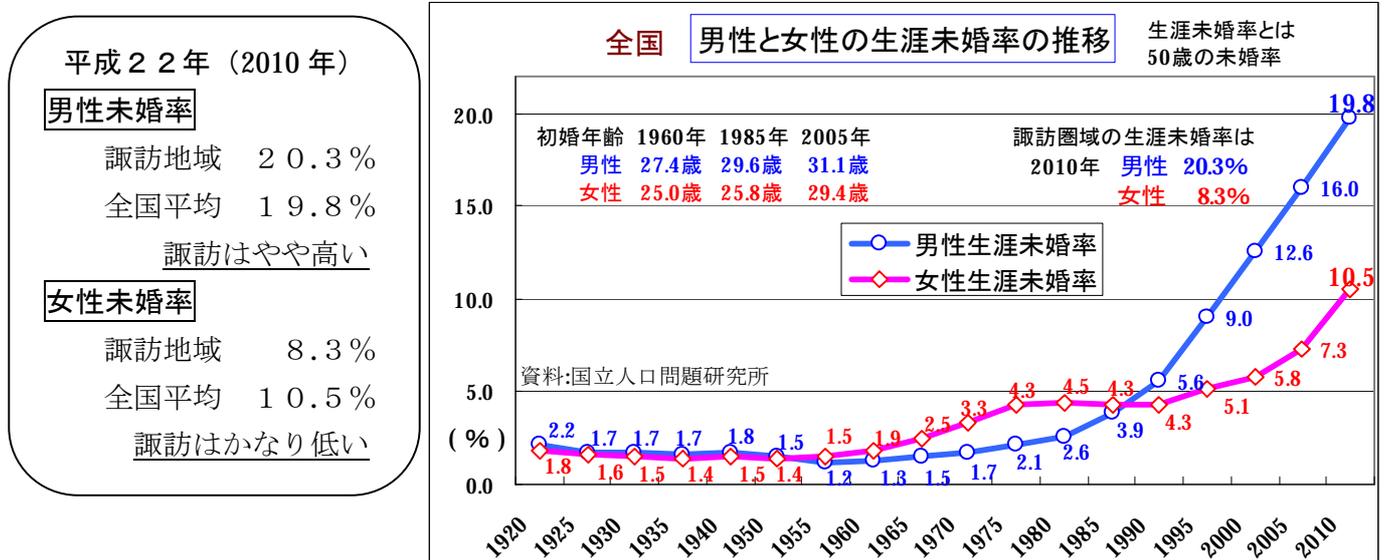
1. 増加 ①全国的に近年の未婚者や未婚率の上昇は急激である。諏訪はほぼ全国の動きに並行している。
2. 女性 ①女性の生涯未婚率は8.3%にまで上昇した。全国の10.3%にくらべるとやや低い。
②女性は離別者の数が男性の約2倍あり多い。男性に比べて再婚率の低いことが見えてくる。
3. 男性 ①男性の生涯未婚率は20.3%と高くなり、50歳になって5人に1人が未婚ということである。
②男性の未婚者は女性に比べて非常に多いため、未婚の男性は結婚できるチャンスが小さくなる。
③男性は絶対数でも女性より約10%多いが、出生時にすでに男性は5%多く生まれている。
④高校卒業後多くが圏外に進学するが、卒業後の圏外からの諏訪への回帰率は女性の方が低い。
⑤第二次ベビーブームが30代後半になり若い女性が少なくなって男性の結婚を一層困難にしている。
4. 地域 ①諏訪圏域では湖周3市町の未婚率が高い。人口減少や高齢化の進んだ下諏訪町が格段に高い。
②岳麓の茅野市や原村の未婚率が他市町に比べて低い。かつては農村の嫁不足の結婚難が社会問題になったが、これが現在では逆転して、農村部の未婚率が昔からの市街地より低くなった。
③原村の未婚率がとりわけ低い。子育て支援などの施策は知られているが、その要因について検証してみるのが大切である。原村と比較して富士見町の高いのが気になる所である。



5. 男性の生涯未婚率が女性より高くなる理由

- ① 出生時に、男性は女性より6%多く生まれ、その後の死亡率では男女に差がない。
- ② 離別者と死別者で結婚していない人が、女性は男性の2倍いる。男性の離別者・死別者の多くが女性の未婚者と再婚するのに対し、女性の場合は再婚する人が少ないことを示している。

6. 全国と比較すると、諏訪では男性の未婚率はやや高く、女性の未婚率はかなり低い



〔理由〕

- ① 諏訪の女性の未婚率が全国平均よりかなり低い理由としては、近くに住む両親の育児支援を受けることができたり、保育園が完備していて待機児童がいないことなど、子育て環境が都会よりすぐれていることがあげられる。
- ① 結婚や子育てをする25歳～39歳の男女の人数が、男性の方が女性より9%も多い。25歳～49歳でも同様である。出生時に6%多いのは自然であるが、残りの3%は高卒後に都会に出ていた若者が、諏訪に帰る比率が男性より女性の方が少ないということである。オフィス仕事など進学した女性の職場が少ないことも一要因である。

7. 考えられる地域の少子化対策

- ① 子どもを出産する子育て期の女性が多くなるのが肝心である。
 - o 進学した若い女性にとって魅力的な職場を増やしたい。
 - o 子育てしやすい、暮らしやすい環境を整備すると共に、強くアピールすることも必要。
- ② 女性の未婚率を下げ、離別者・死別者の再婚率を上げるための施策。